

新型コロナウイルス感染症対策に伴う大会ガイドライン

茨城県バドミントン協会

この大会は、公益財団法人日本バドミントン協会が作成した新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに準じて、参加者及び関係者の健康と安全の確保を最優先して実施する。

なお、会場に入場できるのは、選手、役員（引率を含む）のみとし、応援、親族等の入場はご遠慮頂き無観客で行うものとする。

1. 大会参加者（会場に入る全ての人）の注意事項（大会参加者健康状態チェックシート記載内容）

以下の事項等に該当する場合は大会に参加しないこと

- ① 平熱を超える発熱がある。
- ② 咳、喉の痛みなどの風邪の症状がある。
- ③ だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）がある。
- ④ 嗅覚や味覚の異常がある。
- ⑤ 体が重く感じる、疲れやすい。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触をした。
- ⑦ 同居家族や身近な知人に感染を疑われる方がいる。
- ⑧ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされる国、

2. 大会参加者（会場に入る全ての人）の受付の手順

- ①会場入り口で手指の消毒と検温を実施する。
- ②「大会参加者健康状態チェックシート」の必要事項を記載し大会本部へ提出する。
- ③大会本部で大会参加者健康状態チェックシート」の内容を確認し参加の可否を判断する。
否の場合は速やかに退場をして頂く。

3. 会場内の人々の感染防止対策（試合中の競技者は除く）

- ①会場内にいる人々は必ずマスクの着用をすること。
- ②全ての行動において、密にならないよう2mの間隔を確保すること。

4. 大会本部の感染予防対策

- ①大会本部は、蜜を避けるための運営スペースを確保する。
- ②スタッフは常時マスクを着用し、こまめに手指消毒を行う。
- ③常時、扉を開放するなどの換気を行う。
- ④運営物品や共有物は、定期的に消毒を行う。
- ⑤式典等、運営の簡略化（開閉会式、表彰式は行わない）

5. 会場に関する感染予防対策

- ①換気とドアへの接触を防ぐためフロア入口の扉を常時開放する。
- ②待機中、食事中等、感染予防のため人との距離を2m以上確保する。
- ③各自、靴袋を準備し持ち運ぶ。
- ④更衣室の使用はできるだけ短時間で済ます。シャワーの使用はできない。
- ⑤ゴミは全て各自持ち帰り自宅で処分する。
- ⑥自身の試合及び、審判が終了したら速やかに会場(体育館)から、退場する。

6. 競技上に関する感染予防対策(選手、主審、線審)

- ①主審、線審は必ずマスクを着用する。
- ②トスは一定の距離（2 m）をあけて行う。
- ③主審のコールは、・プレイ・フォルト・レット・ゲーム・得点等最小限で行う
- ④線審は試合終了後に着席していた椅子を備えてある消毒液で消毒すること。
- ⑤選手同士や審判員との握手は行わない。ハイタッチ等の選手同士の接触を行わない。
- ⑥ラケット、タオル、ドリンクの貸し借りや共用はしない。
- ⑦シューズの裏で手を拭かない。
- ⑧競技中に大声を出さない。
- ⑨審判員または選手同士でも近距離での会話は行わない。
- ⑩シャトル交換時の接触を避ける。
- ⑪試合の合間には石鹸等での手洗い、消毒液等による手指消毒を行う。
- ⑫応援は声援を禁止し拍手のみとし、席を移動したり手すりからはしない。
- ⑬タオル、ドリンク、予備のラケット等は床に置かずにラケットバッグ等に入れること。

7. 大会での感染者発生時に向けた対応

- ①大会の参加者が、大会終了後48時間以内に新型コロナウイルス感染が確認された場合や感染の疑いがある者(濃厚接触者)となる場合は、参加者は当協会に速やかに報告する。
- ②検査を実施した医師から保健所を経由し協会に連絡があった場合は、速やかに関係機関等に連絡する。あわせて追跡調査のため大会参加者名簿を保健所に提出する。
- ③感染等が確認された場合は、提出のあった「大会参加者健康状態チェックシート」を、必要に応じて保健所等に提供する。なお、チェックシートは目的以外の使用は行わず、大会終了後1ヶ月経過後に破棄する。
- ④感染等が確認された以後の対応は保健所の指示に従う。

以上